

■ 第3章 伊勢原市の文化財の概要

1 指定・登録文化財の状況

市域には、文化財保護法に基づく「国指定文化財」が12件、「国登録文化財」10件が所在しています。また、神奈川県文化財保護条例（以下、「県条例」という。）に基づく「県指定文化財」が14件、市条例に基づく「伊勢原市指定文化財」が39件、「伊勢原市登録文化財」が4件となっています。

(1) 国指定文化財（12件）

本市の国指定文化財は、宝城坊に集中しています。それらについては本章、4の(1)に記載しています。もう一件は大山寺の鉄造不動明王及二童子像で、大山寺の本尊として鎌倉時代に鑄造されました。仏像には珍しく鉄でできています。江戸時代に大山詣りに訪れた多くの参詣者が拝んだ仏様です。

史跡の八幡台石器時代住居跡は、昭和8年に縄文時代の床に石を敷いた住居が見つかった遺跡です。当時としては珍しい発見で、翌年史跡に指定されています。

表3 伊勢原市に所在する指定・登録文化財の件数（令和3年3月1日現在）

類 型			国指定	県指定	市指定	国登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	建築	2	—	5	7	—	14
		土木構造物	—	—	—	3	—	3
	美術工芸品	絵画	—	1	3	—	—	4
		彫刻	8	2	7	—	—	17
		工芸品	1	4	—	—	—	5
		古文書	—	—	2	—	—	2
		考古資料	—	—	4	—	—	4
		歴史資料	—	—	—	—	1	1
無形文化財		音楽	(1)	—	—	—	—	(1)
民俗文化財	有形		—	2	2	—	1	5
	無形	民俗芸能	—	1	1	—	1	3
		風俗慣習	—	—	—	—	1	1
		民俗技術	—	—	1	—	—	1
記念物	遺跡	1	—	11	—	—	—	12
	名勝地	—	—	2	—	—	—	2
	植物	—	4	1	—	—	—	5
伝統的建造物群		—	—	—	—	—	—	0
文化的景観		—	—	—	—	—	—	0
計			12	14	39	10	4	79

※無形文化財の(1)は、長唄の団体構成員としての指定のため、件数には含めていません



写真 35
木造薬師如来及び両脇侍像
(明治 33 年 4 月 7 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 平安時代中期



写真 36 銅鐘
暦応三年十二月十五日の銘あり
(大正 14 年 4 月 24 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 暦応 3 年 (1340、南北朝時代)



写真 37
木造阿弥陀如来坐像
(大正 6 年 4 月 5 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 平安時代末期～
鎌倉時代初期



写真 38
木造薬師如来坐像
(大正 6 年 4 月 5 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 平安時代末期～
鎌倉時代初期



写真 39 木造獅子頭
(平成 28 年 8 月 17 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 13 世紀後半
(鎌倉時代後期)



写真 40
木造日光・月光菩薩立像
(大正 14 年 4 月 24 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 鎌倉時代前期



写真 41 木造四天王立像
(大正 14 年 4 月 24 日指定)
[所有者] 宝城坊
[像名] 多聞天像 持国天像 增長天像 広目天像
[時期] 鎌倉時代前期



写真 42 木造十二神将立像 (大正 14 年 4 月 24 日指定)
[所有者] 宝城坊
[像名] 右から宮毘羅大将像 [子]、伐折羅大将 [丑]、迷企羅大将 [寅]、安底羅大将 [卯]、
額彌羅大将 [辰]、珊底羅大将 [巳]、因陀羅大将 [午]、波夷羅大将 [未]、摩虎羅大将 [申]、
真達羅大将 [酉]、招杜羅大将 [戌]、毘羯羅大将 [亥]
[時期] 鎌倉時代末期～南北朝時代



写真 43 旧本堂内厨子
 (昭和 43 年 4 月 25 日指定)
 [所有者] 宝城坊
 [時期] 鎌倉時代後期



写真 44 宝城坊本堂 (平成 7 年 12 月 26 日指定)
 [所有者] 宝城坊
 [時期] 万治 3 年 (1660、江戸時代前期) 建立、
 延享 2 年 (1745、江戸時代中期) 改修



写真 45 八幡台石器時代住居跡
 (昭和 9 年 12 月 28 日指定)
 [時期] 縄文時代後期



写真 46 鉄造不動明王及び二童子像
 (平成 3 年 8 月 17 日指定)
 [所有者] 大山寺
 [像名] 不動明王像 (中)、
 矜羯羅童子 (右)、
 制吒迦童子 (左)
 [時期] 鎌倉時代後期



写真 47 長唄 鳴物・笛
 (令和 2 年 10 月 9 日指定)
 [保持者] 福原洋子 (本名 尾崎 洋子)
 [認定区分] 総合認定

表4 伊勢原市域の国指定文化財（令和3年3月1日現在）

区分	種別	名称	員数	所在地または認定団体	指定日	
国指定文化財	建造物	宝城坊旧本堂内厨子	1棟	日向 宝城坊	昭43. 4. 25	
		宝城坊本堂	1棟	日向 宝城坊	平7. 12. 26	
	彫刻	木造薬師如来及び両脇侍像	3軀	日向 宝城坊	明33. 4. 7	
		木造阿弥陀如来坐像	1軀	日向 宝城坊	大6. 4. 5	
		木造薬師如来坐像	1軀	日向 宝城坊	大6. 4. 5	
		木造日光・月光菩薩立像	2軀	日向 宝城坊	大14. 4. 24	
		木造四天王立像	4軀	日向 宝城坊	大14. 4. 24	
		木造十二神将立像	12軀	日向 宝城坊	大14. 4. 24	
		鉄造不動明王及び二童子像	3軀	大山 大山寺	昭3. 8. 17	
		木造獅子頭	2面	日向 宝城坊	平28. 8. 17	
	(12)	工芸	銅鐘 曆応三年十二月十五日の銘あり	1口	日向 宝城坊	大14. 4. 24
		史跡	伊勢原八幡台石器時代住居跡	2カ所	東大竹・八幡台	昭9. 12. 28
無形		長唄（笛）	1名	伝統長唄保存会	令2. 10. 9	

※長唄は団体構成員としての指定のため、合計の件数には含めていません

※名称は指定書の記載どおりではなく、現在の呼称、あるいは所有者の意向に沿った名称としています

（表5 県指定文化財以下も同様）

（2）県指定文化財（14件）

県指定文化財は、昭和30年代から40年代の指定が多く、絵画、仏像彫刻、民俗文化財と多岐にわたっています。仏像は大山寺の木造不動明王坐像、宝城坊本堂の十二神将立像ともに平安時代の作です。宝城坊の錦幡は仏堂の内部に懸けるもので、長さ6.6mと非常に大きなものです。それを納める唐櫃には、延文2年（1357）の朱書きがあります。無形民俗文化財としては、奈良の春日大社から大山阿夫利神社に伝えられた「倭舞」「巫子舞」が指定されています。また、銅鐘2件と天然記念物の樹林が4件指定となっています。



写真48 板絵著色歌川国経筆美人図絵馬
 (昭和35年11月4日指定)
 [所有者] 子易 比比多神社
 [時期] 享和2年(1802、江戸時代後期)



写真49 八坂神社銅鐘(平成2年2月13日指定)
 [所有者] 沼目 八坂神社
 [時期] 応永10年(1403、室町時代)



写真 50 木造不動明王坐像
(昭和 59 年 11 月 22 日指定)
[所有者] 大山寺
[時期] 平安時代



写真 51 うずらみか
(昭和 31 年 8 月 17 日指定)
[所有者] 三之宮比々多神社
[時期] 平安時代



写真 52 大太鼓
(昭和 30 年 11 月 1 日指定)
[所有者] 宝城坊
[時期] 室町時代



写真 53
大山阿夫利神社の倭舞及び巫子舞
(昭和 28 年 12 月 22 日指定)
[所有者] 大山阿夫利神社

表 5 伊勢原市域の県指定文化財 (令和 3 年 3 月 1 日)

区分	種別	名称	員数	所在地または認定団体	指定日
県指定文化財 (14)	絵画	板絵著色歌川国経筆美人図絵馬	1 面	子易 比比多神社	昭 35. 11. 4
	彫刻	木造不動明王坐像	1 軀	大山 大山寺	昭 59. 11. 22
		十二神将立像 (所在本堂)	12 軀	日向 宝城坊	平 18. 2. 14
	工芸	うずらみか	1 個	三ノ宮 比々多神社	昭 31. 8. 17
		銅鐘	1 口	下糟屋 高部屋神社	昭 44. 12. 2
		宝城坊の錦幡・唐櫃	1 具	日向 宝城坊	昭 55. 2. 15
		八坂神社銅鐘	1 口	沼目 八坂神社	平 2. 2. 13
	無形民俗	大山阿夫利神社の倭舞及び巫子舞	—	大山 大山阿夫利神社	昭 28. 12. 22
	有形民俗	獅子頭	2 個	日向 宝城坊	昭 30. 11. 1
		大太鼓	1 個	日向 宝城坊	昭 30. 11. 1
	天然記念物	大福寺の大クスノキ	—	伊勢原 大福寺	昭 30. 5. 10
		宝城坊の二本杉	—	日向 宝城坊	昭 30. 11. 1
		大山の原生林	—	大山字阿夫利山	昭 41. 10. 15
		日向薬師の寺林	—	日向 宝城坊	平 3. 2. 8

(3) 市指定文化財 (39 件)

市指定文化財は、39 件と数も多く、種別も様々です。考古資料として古墳からの出土品が 4 件、無形民俗文化財としては神事能で催される大山能狂言、民俗技術では大山の木地師に伝わる大山こまの製作技術が指定となっています。

江戸時代に描かれた太田道灌画像は、本市で最も画像データの貸し出し依頼が多い文化財です。また、史跡、名勝、天然記念物は、いずれも伊勢原町時代の指定となっています。



写真 54 登尾山古墳出土品
(昭和 57 年 2 月 5 日指定)
[所有者] 三之宮比々多神社
[時期] 6 世紀後半～7 世紀



写真 55 齋藤家住宅
(昭和 63 年 4 月 30 日指定)
[所有者] 齋藤家
[時期] 延享 2 年 (1745)

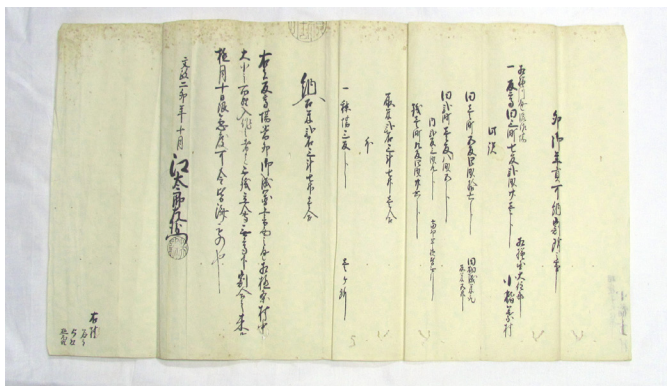


写真 56
小稲葉村古文書 (昭和 57 年 2 月 5 日指定)
[所有者] 小稲葉児童館
[時期] 享保年間 (1746 ～) から明治時代初期

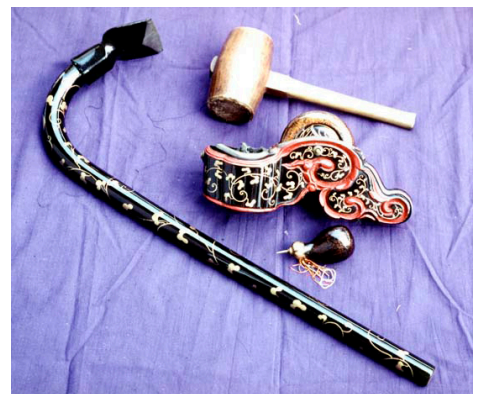


写真 57
宮大工手中明王太郎関連資料
(平成 3 年 3 月 14 日指定)
[所有者] 手中氏
[時期] 江戸時代～昭和時代



写真 58 大山八段滝
(昭和 39 年 5 月 2 日指定)
[所在地] 大山



写真 59 大山能狂言
(昭和 53 年 6 月 28 日指定)
[保持団体] 大山能楽社保存会



写真 60 浅岡篁城作下絵
(昭和 57 年 2 月 5 日指定)
[所有者] 浅岡氏
[時期] 明治時代



写真 61 大山こま製作技術
(平成 29 年 3 月 28 日指定)
[保持者] 播磨啓太郎、鈴木清一、
鈴木勇次、金子吉延、金子貞雄



写真 62 こま犬 (昭和 52 年 5 月 25 日指定)
[所有者] 三之宮比々多神社
[時期] 平安時代後期



写真 63 太田道灌の墓
(昭和 44 年 2 月 27 日指定)
[所有者] 大慈寺
[時期] 15 ~ 16 世紀 (宝篋印塔、五輪塔)

表6 伊勢原市域の市指定文化財（令和3年3月1日現在）

区分	種別	名称	員数	所在地または認定団体	指定日	
市 指 定 文 化 財 (39)	建造物	宝城坊の鐘堂	1 宇	日向 宝城坊	昭 57. 2. 5	
		石造多宝塔	1 基	下糟屋 普濟寺	昭 57. 2. 5	
		齋藤家住宅	1 棟	三ノ宮 齋藤氏	昭 63. 4. 30	
		串橋中世石塔群 〔（伝）善波太郎の墓〕	1 群	串橋字西町	平 17. 4. 26	
		日向洲ノ上石造五層塔	1 基	日向字洲ノ上	平 17. 4. 26	
	絵画	太田道灌画像	1 幅	下糟屋 大慈寺	昭 52. 5. 25	
		浄瑠願寺縁起絵巻	3 巻	日向 浄瑠願寺	昭 53. 6. 28	
		浅岡篁城作下絵	一括	大山 浅岡氏	昭 57. 2. 5	
	彫刻	釈迦涅槃像	1 軀	大山 涅槃寺	昭 52. 5. 25	
		こま犬	2 軀	三ノ宮 比々多神社	昭 52. 5. 25	
		伝妙沢不動尊版木	1 面	日向 宝城坊	昭 53.10.31	
		金剛力士像	2 軀	日向 宝城坊	昭 57. 2. 5	
		木造聖観音坐像	1 軀	下糟屋 大慈寺	平 12.10.23	
		木造薬師如来坐像	1 軀	善波 勝興寺	平 12.10.23	
		木造賓頭盧尊者坐像	1 軀	日向 宝城坊	平 30.10.23	
	古文書	小稲葉村古文書	一括	小稲葉児童館	昭 57. 2. 5	
		北条幻庵印判状（附 写し）	一通	日向 石雲寺	平 30.10.23	
	考古資料	登尾山古墳出土品	一括	三ノ宮 比々多神社	昭 57. 2. 5	
		金銅単竜環把頭	一口	三ノ宮 比々多神社	昭 57. 2. 5	
		尾根山古墳出土品	一括	三ノ宮 比々多神社	昭 63. 4. 30	
		埴免古墳出土品	一括	三ノ宮 比々多神社	昭 63. 4. 30	
	有形民俗	六字名号雨乞軸	1 幅	日向 浄瑠願寺	昭 53. 6. 28	
		宮大工手中明王太郎関連資料	一括	大山 手中氏	平 3. 3.14	
	無形民俗	大山こま製作技術	大山能狂言	—	大山能楽社保存会	昭 53. 6. 28
			大山 播磨啓太郎	5 名	平 29. 3. 28	
			大山 鈴木清一	平 29. 3. 28		
			大山 鈴木勇次	平 29. 3. 28		
			大山 金子吉延	平 29. 3. 28		
			大山 金子貞雄	平 30. 8. 22		
	史跡	上杉館跡	—	上粕屋字立原	昭 44. 2. 27	
浄瑠願寺奥ノ院		—	日向字一ノ沢	昭 44. 2. 27		
一之坪条里制度遺跡		2 ヲ所	笠窪字市ノ坪 白根字一ノ坪	昭 44. 2. 27		
箕輪駅跡		—	笠窪字三ノ輪	昭 44. 2. 27		
下谷戸縄文遺跡環状列石及び住居跡		—	三ノ宮 比々多神社	昭 44. 2. 27		
太田道灌の墓		—	上粕屋 洞昌院	昭 44. 2. 27		
太田道灌の墓		—	下糟屋 大慈寺	昭 44. 2. 27		
岡崎城跡		—	岡崎 無量寺	昭 44. 2. 27		
実蒔原古戦場		—	西富岡字北実蒔原	昭 44. 2. 27		
浄業寺跡		—	三ノ宮字竹ノ内	昭 44. 2. 27		
宝城坊境内		—	日向 宝城坊	昭 48. 3. 23		
名勝		日向溪谷	—	日向字寒沢上流	昭 39. 5. 2	
	大山八段滝	—	大山字大山川	昭 39. 5. 2		
天然記念物	神代杉（うもれ木）	—	善波字三ツ沢河床	昭 44. 2. 27		

(4) 国登録文化財(10件)

市内の国の登録文化財としては、建造物、構造物が対象となっています。建造物としては上粕屋の山口家住宅の主屋と離れ、西富岡の小澤家住宅の主屋、表門、^{にわべい}庭塀です。両家とも江戸時代の名主の家で、作りの良い民家住宅です。また、高部屋神社は拝殿と本殿が対象となっています。本殿は江戸時代前期の建物が関東大震災で倒壊し、昭和初期に再建したもの、拝殿は県内でも珍しい茅葺の社殿です。このほか、構造物として昭和初期に建造された大山の堰堤(砂防ダム)が3件登録されています。



写真 64 小澤家住宅主屋
(平成 19 年 5 月 15 日登録)
[所有者] 小澤氏
[時期] 明治時代初頭



写真 65 山口家住宅主屋
(平成 10 年 9 月 2 日登録)
[所有者] 山口氏
[時期] 天保 5 年 (1834、江戸時代) 建築、
明治 2 年 (1869) 現在地に移転



写真 66 高部屋神社拝殿・幣殿、本殿
(平成 28 年 2 月 25 日登録)
[所有者] 高部屋神社
[時期] 拝殿・幣殿：慶応元年 (1865)
本殿：正保 4 年 (1647、江戸時代) 建立
昭和 4 年 (1929) 再建



写真 67 元滝堰堤
(平成 16 年 8 月 17 日登録)
[所有者] 大山
[時期] 昭和 5 年 (1930)

表7 伊勢原市域の国登録文化財（令和3年3月1日現在）

区分	種別	名称	員数	所在地または認定団体	指定日
(10)	有形文化財	山口家住宅 主屋	1棟	上粕屋 山口氏	平 10. 9. 2
		山口家住宅 離れ	1棟	上粕屋 山口氏	平 10. 9. 2
		八段滝堰堤	1基	大山	平 16. 8. 17
		元滝堰堤	1基	大山	平 16. 8. 17
		袋町堰堤	1基	大山	平 16. 8. 17
		小澤家住宅 主屋	1棟	西富岡 小澤氏	平 19. 5. 15
		小澤家住宅 表門	1棟	西富岡 小澤氏	平 19. 5. 15
		小澤家住宅 庭塀	1棟	西富岡 小澤氏	平 19. 5. 15
		高部屋神社本殿	1棟	下糟屋 高部屋神社	平 28. 2. 25
		高部屋神社拝殿及び幣殿	1棟	下糟屋 高部屋神社	平 28. 2. 25

(5) 市登録文化財（4件）

本市の登録文化財は制度ができてから日が浅いこともあり、件数は4件にとどまっています。無形民俗文化財として、夏山の時期に大山の参詣者を導くために灯籠を立てる大山灯籠行事、有形文化財としては大山道の道標と、いずれも大山詣りにちなむ登録となっています。また、宝城坊の神木のぼりは、山伏が修行を行う際に安全を祈願する儀式で、毎年催される春の例大祭のメインイベントとなっています。大山小学校の青い目の人形は、昭和2年に日本とアメリカの友好親善を目的として、アメリカの子どもたちから送られてきた人形のひとつです。大山小学校に保管してあったものが、調査の結果、友好人形とわかったものです。

なお、本市の文化財登録制度については、第5章3（1）に記載しています。



写真68 青い目の人形
 (平成30年10月23日登録)
 [所有者] 大山小学校
 [時期] 大正4～10年(1915～1921)



写真69 大山灯籠行事
 (平成30年10月23日登録)
 [認定団体] 下之町保存会、仲西保存会、
 八坂前保存会、大田保存会、北高森
 大山灯籠保存会、千津大山灯籠講



写真 70 宝城坊の神木のぼり
 (平成 29 年 3 月 28 日登録)
 [認定団体] 宝城坊神木のぼり保存会



写真 71 大山道の道標
 (平成 29 年 3 月 28 日登録)
 写真は下落合 539 付近所在の道標

表 8 伊勢原市域の市登録文化財 (令和 3 年 3 月 1 日現在)

区分	種別	名称	員数	所在地または認定団体	登録日	
市 登 録 文 化 財 (4)	無形民俗	大山灯籠行事	6 団体	「大山灯籠行事」下之町保存会	平 29. 3. 28	
				「大山灯籠行事」仲西保存会	平 29. 3. 28	
				「大山灯籠行事」八坂前保存会	平 29. 3. 28	
				「大山灯籠行事」大田保存会	平 29. 3. 28	
				北高森大山灯籠保存会	平 29. 3. 28	
				千津大山灯籠講	平 29. 3. 28	
			宝城坊の神木のぼり	1 団体	宝城坊神木のぼり保存会	平 29. 3. 28
		有形民俗	大山道の道標	14 基	下落合 539 付近 (長沼交差点)	平 29. 3. 28
	上谷 2-1 付近 (上谷の辻)				平 29. 3. 28	
	東富岡 87 付近 (東富岡 87 の辻)				平 29. 3. 28	
	岡崎 4938 付近				平 29. 3. 28	
	上粕屋 1141-2 (山王橋際)				平 29. 3. 28	
	上粕屋 1141-2 (山王橋際)				平 29. 3. 28	
	串橋 431 北東角				平 29. 3. 28	
日向 1691 付近 (日向・白髭神社前)	平 29. 3. 28					
日向 1691 付近 (日向・白髭神社前)	平 29. 3. 28					
小稲葉 2288-1 (八幡神社)	平 30. 10. 23					
小稲葉 2467 (新屋公民館)	平 30. 10. 23					
東大竹 1198 (光明院)	平 30. 10. 23					
神戸 518 (木下神社)	平 30. 10. 23					
三ノ宮 1273 (能満寺)	平 30. 10. 23					
歴史資料		青い目の人形	1 体	大山 209 (大山小学校)	平 30. 10. 23	

(6) 指定・登録文化財の制作年代

市域の文化財を制作された年代でみると、出土品を除く伝世品としては、平安時代中期（10世紀末から11世紀初頭）の作とされている宝城坊の「木造薬師如来及び両脇侍像」（国指定）が最古となります。他に平安時代後期の作としては、比々多神社の「こま犬」（市指定）、大山寺の「木造不動明王坐像」（県指定）があり、宝城坊の木造十二神将立像（県指定）は、仁平3年（1153）頃に都付近で作られたと考えられています。比々多神社に伝わる須恵器の甕である「うずらみか」（県指定）も平安時代とされています。これらの指定文化財はいずれも大山の麓に所在する社寺に伝わっています。

鎌倉時代、南北朝時代、室町時代の文化財としては、宝城坊や善波の勝興寺、下糟屋の大慈寺に国、市の指定を受けた仏像が伝わっています。宝城坊の錦幡とそれを納める唐櫃（県指定）は鎌倉公方の足利基氏が貞治3年（1364）に寄進したものです。銅鐘は、宝城坊が暦応3年（1340、国指定）、いずれも県指定重要文化財である下糟屋の高部屋神社が至徳3年（1386）、沼目の八坂神社が応永10年（1403）の铸造です。古文書としては石雲寺の印判状（市指定）が戦国時代（1543年）、石造物としては、串橋の石塔群、石雲寺の五層塔（いずれも市指定）が南北朝から室町時代後期の作です。

建造物は江戸時代前期の宝城坊本堂が万治3年（1660）と最も古く、三ノ宮の齋藤家住宅が延享2年（1745）に建てられました。無形文化財である大山の能狂言（市指定文化財）は江戸時代から、県指定文化財の倭舞、巫子舞は明治初期に阿夫利神社に伝わったものです。大山こまの製作技術（市指定）も江戸時代からの伝統と考えられています。

このように、主な指定文化財を見ても、由緒ある社寺を中心として、平安時代から中世、近世と貴重な文化財が伝えられてきたことがわかります。

(7) 文化財の指定時期の特徴

現在の文化財保護法は昭和25年に制定されましたが、それまでは昭和4年の国宝保存法に基づいていました。本市には、それ以前、明治30年に制定された古社寺保存法に基づき指定された文化財があります。宝城坊の本尊である木造薬師三尊像は、明治33年に神奈川県内で最初の「旧国宝」指定事例です。更に大正6年、14年には阿弥陀如来坐像、

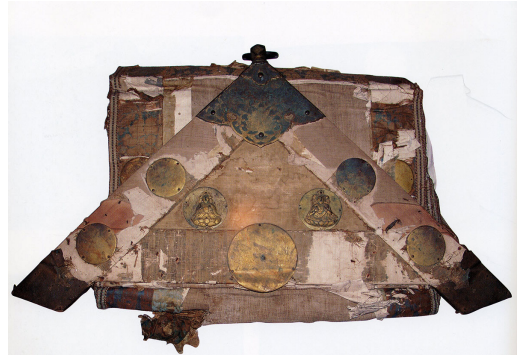


写真 72 宝城坊の錦幡（上）と唐櫃（下）



写真 73 高部屋神社の銅鐘

薬師如来坐像、日光・月光菩薩立像、四天王立像、十二神将立像、更に銅鐘が立て続けに指定され、大山寺の鉄造不動明王も昭和3年と国宝保存法以前の指定となっています。

文化財の対象が狭く、指定件数も少なかった時代に、こうした市域の文化財が当時の国宝に指定されていることは、それらが文化財としての価値をいち早く認められ、評価されていたことを示しています。伊勢原が文化財の宝庫と言われていた理由もこうしたところにあると考えられます。

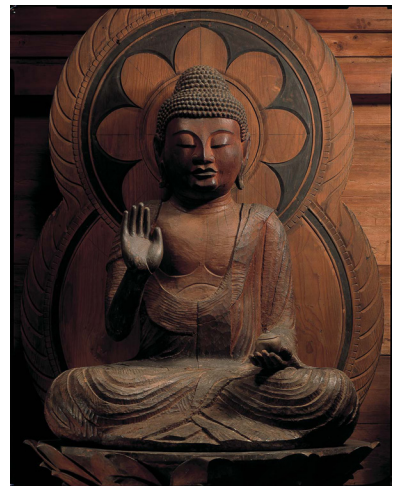


写真 74 宝城坊の薬師如来坐像

(8) 指定文化財の類型から見た特徴

本市の指定文化財は、仏像や銅鐘、建造物等といった有形の文化財が多い傾向があります。これらは、戦前までの比較的古い時期に指定となっており、こうした分野の調査が早くから進んでいたことを示しています。一方で、有形文化財でも絵画や古文書の指定が少ないのは、材質上、資料の保存が難しく、また、個人蔵の資料が多いことが理由と考えられます。考古資料については市の指定のみとなっています。

個人の高度な技量の習得による無形文化財は、地域で育てることが難しい文化財ですが、令和2年度に初めて市内在住者が国の総合認定の団体構成員として指定を受けました。

無形民俗文化財については、民俗芸能が主となっていましたが、近年、地域の風俗慣習、民俗技術についても指定・登録文化財としました。有形民俗文化財は、雨乞い等の儀礼に用いられた軸、幡等と宮大工の道具類で、市登録は石造物に限られています。

記念物は、県の指定である樹木、寺社林を除くとほぼ市の指定です。史跡については、古い時期の指定が多く見られますが、近年の発掘調査の状況からすると、新たに価値の高い史跡が発見されることも想定されます。

また、伝統的建造物群と文化的景観については、県内に選定例がありません。

以上を概観しますと、典型的な文化財については早くに調査が入り、評価されたと考えられますが、民俗文化財等の比較的新しい分野の文化財については、指定・登録が進んでいないという傾向がうかがえます。また、自然系の文化財である動植物や鉱物等についても、調査成果を蓄積していく必要があります。

2 未指定文化財の状況

行政による指定を受けていない文化財は、基本的に所有者の裁量で管理されています。そうした文化財の中には、所有者がその価値を知らず処分したり、維持が難しくなって手放したりということも少なくありません。よって、地域の貴重な文化財を活かし、継承していくためにも、その所在



写真 75 勝興寺本堂

を把握し、価値を認識する必要があります。そしてその結果により、必要に応じて、指定・登録等の行政的措置を行って、継承を図ることが必要です。

ここでは、市域の未指定の文化財のうち主要なものを取り上げますが、触れなかった文化財についても、今後より詳細なデータが蓄積されることで、歴史的評価が定まり、価値が認められることもあり、継続的に調査を進めていくことが大切です。

(1) 有形文化財（建造物・工芸・古文書等）

建造物としては、江戸時代前期の明暦2年（1656）建造である大福寺の本堂が、相模地域の浄土宗本堂の典型例として高い評価を受けています。その後の江戸時代の建物としては、善波の勝興寺本堂や三之宮比々多神社本殿等があります。また、日向の石雲寺本堂は大山の宮大工手中明王太郎の作とされています。明治17年（1884）上棟の大山寺本堂は、廃仏毀釈が激しい時期に建立された本格的な仏堂として貴重です。

大山では、先導師旅館であるおおすみ山荘や上神崎旅館の門等が江戸時代、武田旅館は江戸末期の建物に関東大震災後のモダンな建物が増築されています。この他、大山寺の銅製の宝篋印塔は高さ8.5mの大きなもので、江戸時代の寛政7年（1795）に建ち、二度崩れたものの、その都度再建されています。大山阿夫利神社にも、享保、安永年間の鳥居や灯籠、また、川越の講から寄進された巨大な鉄製の天水桶等、大山詣りに関係する文物が残されています。

仏像彫刻では、安養寺の十一面観音立像、宗源寺の阿弥陀如来坐像が平安仏、宝城坊の千手観音立像、光明院の不動明王像両童子像等も貴重な作とされています。仏教関係の資料としては、大山寺に伝わる仏画、版木、納め太刀、高部屋神社の大般若経が戦国時代に遡る資料とみられています。大山に関連する歴史資料としては、おおすみ山荘に伝わる明治初期に描かれた大山山内図、市が所有する大山寺縁起絵巻等、また大山阿夫利神社には大山能に用いられる面、能装束等が伝えられています。

市域に残されている古文書等の歴史資料は、個人蔵となっているものが多い状況ですが、まとまった資料として江戸時代を通じて名主を務めた西富岡の堀江家文書、同じく小澤家文書が貴重です。また、上粕屋の山口家には、江戸時代の資料に加えて、明治時代の自由民権運動の資料が保存されています。

この他、変わった資料としては、明治から平成期まで3代にわたって地域医療で使用された手術道具も市に寄贈されています。

考古資料については、これまでも縄文時代の土器、石器、古墳時代後期の副葬品、戦国時代の資料等が県



写真 76 大山寺の銅造宝篋印塔



写真 77 大山山内図

下でも高く評価されていましたが、近年市内で実施されている大規模な発掘調査により、質、量ともに充実した資料が蓄積されており、今後の整理作業の中で明らかにされることになっています。

(2) 民俗文化財（無形・有形）

無形の民俗文化財は、近年活動が下火となっているものも多い中、社寺を中心とした祭礼は引き続き、実施されています。大山阿夫利神社、三之宮比々多神社、大神宮、寺院でも宝城坊、大山寺では、正月や例大祭等、季節の祭礼が行われています。このほか、地域に伝わる習俗として、どんど焼きが伝えられていますが、その数は減少していると考えられます。民俗技術としては大山周辺の良質な竹を使って江戸時代から始まったとされる矢の製作が今も続けられています。一方、明治30年代に市内の寺院の住職によって始められたとされるあぶ風は、病気が軽く上がるよう願いを込めて空にあげたといわれていますが、後継者がいないことから、現在は製作されていません。

有形の民俗文化財には、大山詣りに関係する資料が多く、大山先導師旅館を中心に、納め太刀、御神酒杵、板招き、布招き、講をもてなす行衣、膳、食器や調度類が挙げられ、奉納された灯籠、石碑の他、大山山内には道標や記念碑が建てられています。道標は大山に向かう路端にも残されています。石造物としては、この他に、中世に遡る五輪塔、宝篋印塔、宝塔のほか、近世の庚申塔等が市内各地に点在しています。

この他、農家の納屋の建て替えや転居等に伴い、かつて使用した農機具や日用道具等の民俗資料の寄贈を受け、市教委で保存しています。



写真 78 大山阿夫利神社の秋季例大祭



写真 79 三之宮比々多神社の山車

(3) 記念物（遺跡・名勝地・植物・動物）

内容や歴史的価値が明らかになり、指定を受けた遺跡は、「史跡」と呼ばれ、保存、活用を図る対象となります。一方、本市では、未指定のまま緑地や公園として現状保存を図ることも進めています。下糟屋の丸山城は、区画整理事業に伴い、必要箇所の発掘調査を行い、城の主要な部分を都市公園として整備し、丸山城址公園として保存して



写真 80 鎧塚古墳の現状

います。西富岡のよろいづか鎧塚古墳は道路拡幅の計画を変更して、石室を保存しています。このほか、民間開発事業に際しても、事業協力によって遺構を残した事例があります。

天然記念物については、伊勢原市緑の保全及び育成に関する条例に基づき「伊勢原市保存樹木」を57本、「伊勢原市保存樹林」を4件指定しています。また、昭和51年から始まった「かながわの50選・100選」シリーズのひとつとして、昭和59年に神奈川県が「かながわ名木100選」を選定し、市内では、県指定である「宝城坊の幡かけのスギ」（県指定名は「宝城坊の二本杉」）と「大福寺のクスノキ」（県指定名は「大福寺の大クスノキ」）に加え、「阿夫利神社のカシワ」が選ばれています。



写真 81 大山阿夫利神社のカシワ

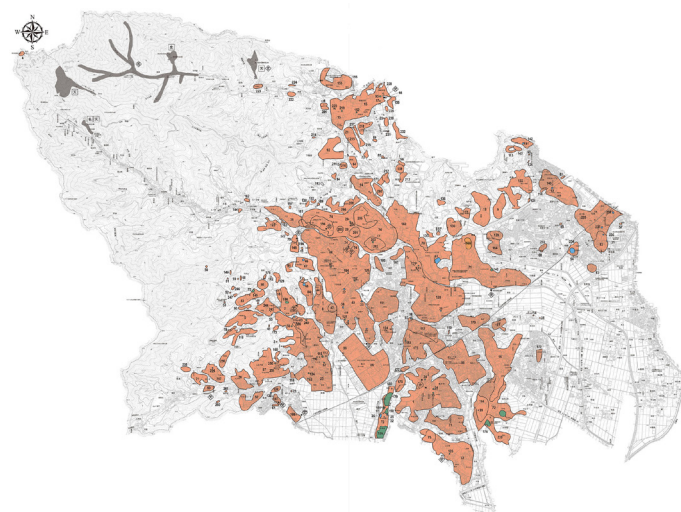


図 14 伊勢原市の埋蔵文化財包蔵地

(4) 埋蔵文化財

埋蔵文化財が所在している土地を埋蔵文化財包蔵地と言い、令和3年1月現在、本市では280か所を数えます。その数はここ15年程大きく変わっておらず、市北西部の山地から続く低丘陵地、台地上に多く分布しています。この範囲においては、文化財保護法により土木工事の事前届出が義務付けられ、その保護に向けた手続きが必要になります。

一方、発掘調査の出土品は、調査指導の分担により県と市の教育委員会が管理しています。

(5) 未指定の文化財の把握

次に、市域の文化財について、未指定の文化財リストを提示します。

このリストは、市内に所在する無数の文化財のうち、現在、市教委が把握し、ある程度内容をつかんでいる主なものを列挙したものです。内容の詳細、時代の確定等、今後の調査を待たなければならないものも含んでいます。正確な数が確認できない「一括」とされている資料を除いても、その数は13,921点となります。有形、無形、大きさ、素材、所有者等様々であり、ひとまとめにして語ることはできませんが、今後本市が取り組んでいく文化財の保存と活用において、何らかの対応が可能な対象として把握しておく資料です。

この他にも、ここに掲げきれないほどの文化財がありますし、市域には社寺や個人が所有し、市教委が把握していない文化財も多数所在すると考えられます。

また、文化財保護法の変遷を振り返ると、かつては文化財として保護の対象としていなかったものを新たな文化財類型として追加してきています。保存と活用の対象も変化していきますので、地域の歴史文化を踏まえ、地域が大切にし、将来に継承すべきと思う文化財の把握、検討を継続していくことが大切となります。

表9 有形文化財（建造物）

No.	名称	所在・所有者	員数	備考
1	大山寺 本堂	大山 大山寺	1 棟	明治 19 年
2	銅造宝篋印塔	大山 大山寺	1 基	寛政 7 年
3	勝興寺 本堂	善波 勝興寺	1 棟	江戸期
4	勝興寺 客殿	善波 勝興寺	1 棟	伏見宮別邸西御殿を平成 8 年に移築
5	大福寺 本堂	伊勢原 大福寺	1 棟	江戸期
6	耕雲寺 本堂	田中 耕雲寺	1 棟	寛延 2 年
7	三之宮比々多神社 本殿	三ノ宮 比々多神社	1 棟	江戸期
8	上神崎旅館	大山 上神崎旅館	2 棟	門 主屋
9	阿夫利神社 鳥居	大山 阿夫利神社	4 基	本社（江戸） 石製 下社（享保） 銅製 子易（不明） 銅製 ノ引（嘉永 4 年） 石製
10	高部屋神社 金毘羅宮 社殿	下糟屋 高部屋神社	1 棟	江戸期
11	佐藤大住旅館	大山 おおすみ山荘	1 棟	江戸期
12	古宮旅館	大山 古宮旅館	1 棟	震災前
13	小笠原旅館	大山 小笠原旅館	1 棟	大正 15 年建立
14	織部旅館	大山 織部旅館	1 棟	震災前
15	たけだ旅館	大山 たけだ旅館	1 棟	震災前
16	目黒旅館	大山 目黒旅館	1 棟	江戸期
17	かすみ荘	大山 かすみ荘	1 棟	明治
18	山荘なぎさ	大山 山荘なぎさ	1 棟	明治 37 年
19	かめい旅館	大山 かめい旅館	1 棟	昭和 2 年主屋再建
20	良弁堂	大山	1 棟	
21	俱利伽羅堂	大山 大山寺	1 棟	江戸期
22	二ノ鳥居（石製）	上粕屋 山口家	1 基	江戸期

表 10 有形文化財（彫刻）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	千手観音立像	日向 宝城坊	1 軀	平安の可能性あり
2	十二神将像荘厳具	日向 宝城坊	—	
3	阿弥陀如来坐像	上粕屋 宗源寺	1 軀	平安時代後期

4	不動明王像及び二童子像	東大竹 光明院	3 軀	江戸期、胎内文書
5	地藏菩薩立像	善波 勝興寺	1 軀	鎌倉の可能性あり
6	阿弥陀如来坐像	東大竹 大宝寺	1 軀	平安～鎌倉の可能性あり
7	阿弥陀如来立像	下糟屋 南蓮寺	1 軀	鎌倉の可能性あり
8	阿弥陀如来坐像	大山 易往寺	1 軀	鎌倉の可能性あり
9	阿弥陀如来及び両脇侍像	下落合 善勝寺	1 軀	鎌倉
10	宝冠釈迦如来坐像	栗窪 妙泉寺	1 軀	南北朝
11	阿弥陀如来坐像	石田 浄心寺	1 軀	鎌倉～南北朝の可能性あり

表 11 有形文化財（古文書）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	経巻	下糟屋 高部屋神社	5 幅	大般若経（15 世紀）
				涅槃経（15 世紀）
				大方等大集経（15 世紀）
				月蔵経（15 世紀）
				広佛華嚴経（15 世紀）
2	北方関係資料	田中 耕雲寺	一括	江戸期
3	大山寺縁起絵巻（旧大津本）	市教委	1 点	享保元年
4	堀江家文書	市教委	約 4300 点	名主関係
				医療関係
5	守屋之康家文書	市教委	1493 点	
6	大津浩一郎家文書	大津氏	15 点	
7	鶴川隆家文書	市教委	103 点	
8	山口一夫家文書	山口氏	750 点	
9	小澤光孝家文書	小澤氏	965 点	
10	山田政雄家文書	山田氏	5 点	
11	成田秀雄家文書	成田氏	75 点	
12	萩原宜孟家文書	萩原氏	112 点	
13	高田錠一郎家文書	高田氏	18 点	
14	高田元澄家文書	高田氏	18 点	
15	山本豊彦家文書	山本氏	317 点	
16	越地沓家文書	越地氏	276 点	
17	坪井助茂家文書	坪井氏	20 点	
18	白根自治区有文書	白根自治会	609 点	
19	吉川義雄家文書	吉川氏	43 点	
20	小泉勇家文書	小泉氏	76 点	
21	中村慎夫家文書	中村氏	58 点	

22	陶山千春家文書	陶山氏	85 点	
23	麻生昭男家文書	麻生氏	212 点	
24	小稲葉自治区有文書	小稲葉自治会	255 点	
25	大谷聡家文書	大谷氏	600 点	
26	二見俊三家文書	二見氏	35 点	
27	花井家文書	花井氏	一括	
28	内藤正徳家文書	市教委	一括	

表 12 有形文化財（絵画）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	大山山内図	大山 おおすみ山荘	1 点	明治 2 年
2	釈迦十六善神像	大山 大山寺	1 点	
	愛染明王像		1 点	
	星曼荼羅		1 点	
	不動明王及び二童子像		1 点	
3	刺繍曼荼羅	伊勢原 大福寺	1 幅	江戸期
4	大山関係浮世絵	市教委	73 点	

表 13 有形文化財（考古資料）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	三ノ宮・下尾崎遺跡出土品	市教委	一括	横穴墓副葬品等
2	三ノ宮・上栗原遺跡出土品	市教委	一括	〃
3	日向・洗水遺跡出土品	市教委	一括	古墳副葬品等
4	坪ノ内・久門寺遺跡出土品	市教委	一括	玉造資料
5	成瀬第二地区遺跡群出土品	市教委	一括	中世
6	沼目・天王原遺跡出土品	市教委	一括	奈良・平安
7	石田・細谷遺跡出土品	市教委	一括	弥生～古墳
8	石田・源太夫遺跡出土品	市教委	一括	〃
9	石田・外堀遺跡出土品	市教委	一括	〃
10	石田・峯遺跡出土品	市教委	一括	〃
11	西富岡・向畑遺跡出土品	県教委	一括	調査継続中
12	子易・中川原遺跡出土品	県教委	一括	調査継続中
13	上粕屋・石倉中遺跡出土品	県教委	一括	旧石器、縄文
14	田中・第六天遺跡出土品	市教委	一括	奈良・平安
15	八幡台遺跡出土品	市教委	一括	縄文
16	神成松遺跡出土品	県教委	一括	調査継続中
17	三ノ宮・宮ノ前遺跡出土品	市教委	一括	縄文時代草創期
18	東大竹・市場遺跡出土品	市教委	一括	奈良・平安

19	日向・西新田原遺跡出土品	市教委	一括	古墳副葬品等
20	下糟屋・丸山遺跡出土品	市教委	一括	中世
21	下糟屋・下町並遺跡出土品	市教委	一括	中世

表 14 民俗文化財（無形 風俗慣習）

No.	名称	所在	員数	備考
1	廻り地藏	市内各所	11 件	
2	どんど焼き	市内各所	—	

表 15 民俗文化財（無形 まつり）

No.	名称	所在	員数	備考
1	筒粥神事	大山 阿夫利神社	1 件	
2	初薬師	日向 宝城坊	1 件	
3	節分祭	大山 阿夫利神社	3 件	
		三ノ宮 比々多神社		
		伊勢原 伊勢原大神宮		
4	五壇護摩	大山 大山寺	1 件	
5	日向薬師春季大祭	日向 宝城坊	1 件	神木のぼり（市登録）
6	三之宮比々多神社春季例大祭	三ノ宮 比々多神社	1 件	人形山車
7	神事能	大山 阿夫利神社	1 件	大山能狂言（市指定）
8	国府祭	大磯 六所神社	1 件	比々多神社神輿渡御（県指定）
9	酒まつり	大山 阿夫利神社	2 件	お水取り神事
		三ノ宮 比々多神社		
10	大山阿夫利神社秋季例大祭	大山 阿夫利神社	1 件	大山能狂言（市指定）
11	大山能楽奉納	大山 阿夫利神社	1 件	大山能狂言（市指定）
12	伊勢原大神宮例大祭	伊勢原 伊勢原大神宮	1 件	
13	火祭薪能	大山 阿夫利神社	1 件	大山能狂言（市指定）

表 16 民俗文化財（無形 民俗技術）

No.	名称	所在	員数	備考
1	日向の石工	日向	—	
2	伊勢原の矢	安田弓具店	—	
		山田弓具店		
3	あぶ風	—	—	後継者なし

表 17 民俗文化財（有形）

No.	名 称	所在・所有	員数	備 考
1	舞楽面	下糟屋 高部屋神社	3 点	鎌倉、室町、江戸
2	獅子頭	下糟屋 高部屋神社	1 対	
3	手中明王太郎大工道具	手中氏	257 点	調査済み 257 点（鋸、鑿、錐、槌、鉾、鉋、小鉋、墨掛道具、予備刃物）
4	灯籠（銅製）	大山 阿夫利神社	2 点	安永 西村和泉守作
5	天水桶（鉄製）	大山 阿夫利神社	2 点	
6	鳥居（銅製）	大山 阿夫利神社	1 基	享保
7	まわり地蔵	比々多 神戸	1 軀	西村和泉守作
8	宝篋印塔（銅製）	大山 大山寺	1 基	寛政 7 年、西村和泉守作
9	扁額	日向 宝城坊	1 点	
10	堀江医院 医療器具	市教委	一括	明治～昭和
11	納め太刀	大山 宿坊等	16 点	江戸末期（文化～安政）
12	御神酒椀	大山 宿坊等	2 対	文化 10～11 年
13	鬼神面	大山 阿夫利神社	1 点	室町
14	大山能 能面	大山 阿夫利神社	25 点	調査中
15	大山能 装束	大山 阿夫利神社	一括	江戸期
16	版木	大山 大山寺	一括	
17	市内所在石造物	岡崎	43 件	調査・報告書刊行済
		東大竹	83 件	
		八幡台	0 件	
		桜台	18 件	
		上平間	32 件	
		下平間	37 件	
		沼目	87 件	
		下谷	32 件	
		上谷	11 件	
		小稲葉	87 件	
		池端	38 件	
		下落合	35 件	
		見附島	8 件	
		東成瀬	0 件	
		石田	58 件	
		高森台	28 件	
		高森	51 件	
		高森 1～7 丁目	48 件	

	東富岡	60件	
	栗窪	20件	
	下糟屋	115件	
	田中	52件	
	板戸	45件	
	伊勢原	66件	
	三ノ宮	246件	調査済、報告書編集中
	白根	39件	
	木津根（三ノ宮）	6件	
	鈴川	2件	
	神戸	21件	
	串橋	37件	
	善波	83件	
	大住台	3件	
	笠窪	41件	
	坪ノ内	90件	
	上粕屋	303件	調査済
	西富岡	83件	
	日向	276件	
	子易	88件	
	大山	566件	

表18 記念物（遺跡・史跡）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	小金塚古墳	高森	1基	
2	登尾山古墳	三ノ宮	1基	
3	埴免古墳	三ノ宮	1基	
4	松山古墳	三ノ宮	1基	
5	鎧塚古墳群	日向	—	
6	丸山城	下糟屋	—	
7	高部屋愛育保健所館跡	西富岡	—	
8	私塾弘文舎跡	西富岡	—	
9	宝井其角、大橋宗桂、桂川甫周、丸橋忠弥の墓	上粕屋 上行寺	—	
10	七つ塚	上粕屋	—	
11	心敬塚	三ノ宮	—	
12	権田直助、貴志又七郎の墓	大山 権田公園	—	
13	大山寺八大坊の墓	大山	—	

14	盤泉和尚の墓	下糟屋	—	
15	極楽寺・熊野神社跡	上粕屋	—	
16	糟屋一族の墓	上粕屋	—	洞昌院に移設
17	近藤如水の墓	比々多 八幡神社	—	
18	良弁滝	大山	—	
19	大瀧	大山	—	
20	元滝	大山	—	
21	愛宕滝	大山	—	
22	二重滝	大山	—	

表 19 記念物（天然記念物）

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	大山阿夫利神社のカシワ	大山 阿夫利神社	1 本	かながわ名木 100 選
2	雑木林	東大竹、高森台、笠窪、石田	4 カ所	伊勢原市保存樹林
3	ケヤキ		12 本	伊勢原市保存樹木
4	イチョウ		8 本	
5	クス		8 本	
6	シイ		5 本	
7	サクラ		4 本	
8	フジ		4 本	
9	カヤ		3 本	
10	マキ		3 本	
11	シバ		2 本	
12	モチ		2 本	
13	スギ		2 本	
14	ウメ		1 本	
15	エノキ		1 本	
16	カシ		1 本	
17	ナギ		1 本	

表 20 複数分野

No.	名称	所在・所有	員数	備考
1	堀江家資料	市教委	一括	名主関係文書
				医療関係文書
				医療器具
				石造物

2	山口家資料	山口氏	一括	建造物
				名主関係文書
				自由民権関係文書
				民俗資料
3	手中家資料	手中氏	一括	大工道具
				古文書
				御師資料（民俗資料）
4	大山寺資料	大山 大山寺	一括	建造物
				古文書
				無形民俗
5	三之宮比々多神社資料	三之宮比々多神社	一括	古文書
				神社関係民俗資料
				考古資料
6	阿夫利神社資料	大山 阿夫利神社	一括	有形民俗
				無形民俗
				建造物
7	大福寺資料	伊勢原 大福寺	一括	建造物
				工芸
				天然記念物
8	国泰寺関係資料	下糟屋 普濟寺	一括	建造物
		田中 耕雲寺		古文書
9	内藤家資料	市教委	一括	古文書
				民俗（有形）

表 21 未指定文化財件数

類 型			員 数
有形文化財	建造物	建築	25
		美術工芸品	彫刻
		絵画	79
		古文書	10446
		考古資料	一括
民俗文化財	有形	石造物	2935
		その他	313
	無形	伝統芸能（まつり）	16
		風俗慣習	11
民俗技術		集計不能	
記念物	史跡	遺跡	22
	天然記念物	植物	62
計			13921

3 歴史的まとまりとしての文化財

本市の主な指定・未指定文化財について、文化財の種別ごとに例示してきましたが、それらは本来、有機的なつながりを有す歴史的なまとまりとして機能していました。そのまとまりを文化財の所在地や所有者から見ていくと、以下のような6つのまとまりに分けることができます。これらは、指定、未指定の文化財が一体となった本市を代表する文化財群であり、そのまとまりごとに本市の歴史文化の特徴を表していると言えます。今後の保存と活用の際には、個々の文化財としてだけでなく、このようなまとまりとしての理解と取組が必要となります。

(1) 宝城坊の文化財

本市の国指定重要文化財は、多くを日向の宝城坊が所有しています。鎌倉時代の正史『吾妻鏡』には、あづまかがみ霊山寺（宝城坊の前身）について、「行基が建立した薬師如来の霊場、当国において効験無双」と書かれています。本尊の薬師三尊像は、意図的にノミ痕を残す「なたぼ鈍彫り」と呼ばれる技法を用いています。明治33年、神奈川県で初めて国宝（当時）に指定された仏像です。本堂に所在



写真 82 宝城坊宝殿に納められている仏像、厨子

する十二神将（県指定）も平安時代の作です。

鎌倉幕府成立期、すなわち源頼朝、北条政子の時代の仏像としては、高さ2 m 30 cmを超す薬師如来坐像、日光・月光菩薩立像、阿弥陀如来坐像、四天王立像（以上、国指定）、賓頭盧尊者坐像（市指定）が挙げられます。当時、こうした大きな仏像を寄進できる人物は非常に限られていたと考えられます。本尊を納める厨子（国指定）は鎌倉時代～南北朝時代、等身大の十二神将立像、銅鐘（以上、国指定）、錦幡と唐櫃、大太鼓（以上、県指定）も南北朝時代の作と考えられます。江戸時代前期に建てられた本堂（国指定）もその前身の部材を多数転用しており、その中には鎌倉時代に伐採された部材も含まれていました。また、鎌倉時代～南北朝時代の作とされる獅子頭（国・県指定）の存在が示す行道や舞楽を伴う大規模な法会、修験者の峰入り（修行）の安全を祈願する神木のぼり（市登録）といった儀礼も行われていました。このほか、境内の二本杉、寺林も県指定天然記念物です。



写真 83 大山詣りの御神酒柁

以上のように、宝城坊には、平安時代の本尊を筆頭に時代を異にする数々の仏像が奉納され、それらを納める建物も時代とともに建て直されてきました。そこでは大規模な儀礼が執り行われ、境内や周辺の森が厳粛な景観を形成していたと考えられます。宝城坊には、こうした歴史を裏付け、互いに関連を有する様々な文化財が残されています。

（2）大山詣りに関する歴史資料

日本遺産に認定された「大山詣り」は、江戸時代以降、今に続くまで多くの人々に支持されてきました。その歴史にまつわる資料は多種多様です。古文書から講が使う生活道具、玉垣、建物、そして街並み、景観に至る様々な文化財があり、また、過去の遺産ではなく、今も使用しているものも含まれています。大山詣りは現在も続けられており、今後とも変化していくことが、継承を図るうえで重要になります。

このように、大山詣りは江戸時代から現在まで続いています。明治初年の神仏分離政策により、それ以前と以後ではあり方が大きく変化しています。それまで、大山寺の不動堂は、山王社、浅間社など多くの社とともに建てられていましたが、明治政府のこの政策により取り壊されます。大山寺との取り次ぎを担っていた御師も、先導師と名を変え、阿夫利神社の神官として大山講中と応対することとなります。こうした変革期の混乱を収めるため、阿夫利神社に赴任した国学者の権田直助が、大山の新たな秩序維持に大きく貢献しました。

一方この時に、大山寺を中心とした多くの文化財が散逸したとされています。三代将軍徳川家光が寄進した銅鐘もそのひとつです。現在大山に伝えられている文化財



写真 84 手中明王太郎の大工道具

は、こうした社会の変化をくぐり抜けた歴史の証とすることができます。

(3) 大山の宮大工手中明王太郎に関する歴史資料

手中明王太郎^{てな かみおうおうたろう}は、奈良時代、良弁僧正^{りょうべん}が大山寺を創建した時に、ともに奈良から来た大工の末裔とされています。代々明王太郎を名乗り、大山寺や明王社の修造の際には必ず明王太郎が棟梁を務め、その名と技術を継承してきました。そして、大山寺以外にも相模地域で多数の社寺や神輿の製作に携わりました。平塚市金目の光明寺^{かなめ}の記録には、延徳5年（1493）の年号とともに明王太郎の名が書かれています。

市の指定文化財としている「宮大工手中明王太郎関係資料」には、歴代の明王太郎による社寺関係図面や建築関係文書、建築の祭礼や技術を伝える文書や絵図などがあり、その総数は5,000点以上となります。そのほかに、江戸時代末から昭和初期にかけて使われた大工道具等（総数250点以上）が伝えられています。

古文書や図面だけでなく、実際に建てた建物が今も現存しており、比較研究が可能な点で貴重な資料と言えます。

(4) 三之宮比々多神社の文化財

比々多地区の三ノ宮に所在する三之宮比々多神社は、相模国の三之宮であり、また、延喜式内社^{えんぎしきないしゃ}でもあります。保管されている文化財は、境内の展示室（三之宮郷土博物館）で展示され、一般に公開されています。

それらのうち、平安時代以降の伝世資料は神社の歴史を物語ります。持統5年（691）に相模国の国司、布施朝臣色布知^{ふせあそんしこぶち}が社殿を修復した際に奉納したと伝わる木造の「こま犬」（市指定文化財）や、酒まつりの神事に用いられてきた須恵器^{すえき}の甕^{かめ}である「うずらみか」（平安時代、県指定重要文化財）をはじめ、室町時代の石灯籠、神社に伝来する扁額、漆器や調度品等の道具類、江戸時代の古文書等を挙げるすることができます。

他方、神社周辺の旧石器時代から中世に至る遺跡で発見された考古資料も収集されています。当地は、明治時代に東京帝国大学人類学教室等による調査が実施されるなど、多くの遺跡が集中することで知られていました。そうした特性を活かし、歴代の宮司が地域の人々の協力を得て、出土資料の収集、保管に努めてきました。特に、登尾山古墳^{とのおやま}、塚免古墳^{らちめん}、尾根山古墳群等から出土した鉄刀、金銅製の馬具、銅碗、銅鏡といった副葬品（いずれも市指定文化財）は、神奈川県内随一の内容と評価されています。こうしたことから、三ノ宮周辺は古墳時代後期の6世紀後半から7世紀にかけて、相模地域を支配した最高権力者が代々埋葬された神聖な地域であったと考えられています。

加えて、これらの資料が比々多神社で長く保



写真 85 三之宮比々多神社の郷土博物館

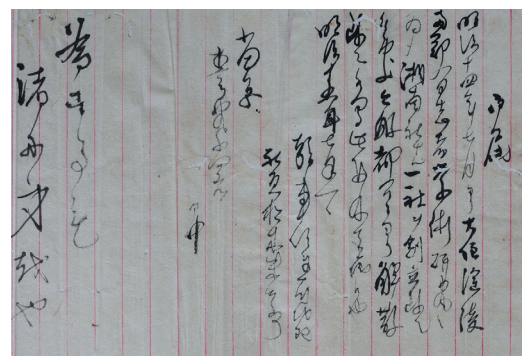


写真 86 湘南社解散の文書

存されてきたことにも大きな意味があります。昭和25年に文化財保護法が制定されても、地方では文化財保護の意識が浸透したわけではなく、地方自治体の体制整備も進みませんでした。そうした状況下で、地域の神社が中心となり、散逸しかけた資料を保存し、公開する取組を続けてきました。地域における文化財保護の先駆けとなる活動により残された貴重な文化財とすることができます。

この他、比々多神社には、近隣の東名高速道路建設時に見つかった縄文時代の敷石住居や横穴式石室が復元され、また、江戸時代建立の拝殿を守るように緑豊かな社叢が広がり、それらが一体となった古社としての佇まいも歴史文化のひとつに位置づけられます。

(5) 山口家住宅と自由民権運動に関する歴史資料

上粕屋の山口家は旗本間部氏の地代官を勤めた家で、その住宅は江戸時代の天保年間^{てんぼう}に建てられたとされ、明治2年(1869)に曳き屋して現在地に移しました。木造2階建て、片入母屋造^{かたいりもやづくり}、ケヤキを多用した質の良い民家で、2階は凝った数奇屋造^{すきやづくり}になっており、宮家の宿泊用に建てられた離れとともに、平成10年に国の登録有形文化財となりました。

明治10年代には、8代目当主山口左七郎^{さしちろう}が相州最初で最大の自由民権結社「湘南社」の社長であったことから、この住宅が活動の本拠地として利用されました。山口左七郎は、県庁勤務から、^{よろぎおおすみ} 洵綾大住両郡の郡長、自由民権結社「湘南社」の社長に迎えられ、明治23年(1890)に第1回帝国議会衆議院議員となった人物です。

そうした関係から、山口家には、上粕屋村の地方史料、旗本間部家および間部家地代官史料、明治前期の自由民権史料、明治・大正・昭和と三代にわたる衆議院議員の国政史料、地域振興・農村近代化史料、産業組合運動・農村改良等の史料等が残されています。これらの資料は、神奈川工科大学「^{うがくぶんこ} 雨岳文庫データベース」として、歴史史料のデジタルデータベース化事業が進められています。

また、山口家住宅と史料は、公益財団法人 雨岳文庫が管理し、市民ボランティアとともに、建物の公開、展示、市民を対象とした講座、文化財ウォーク等の活用事業を実施しています。



写真 87 普濟寺の多宝塔

(6) 蝦夷の国泰寺関連資料

江戸時代後半、日本の近海に諸外国の船が来訪するようになると、幕府は直轄地として蝦夷地^{えぞち}(北海道)の支配に乗り出しますが、厳しい気候風土の中で数多くの方が病死していきました。幕府は蝦夷地で亡くなった和人の供養をするため、三つの官寺を創設します。そのうちの悪消^{あつけし}(厚岸)の国泰寺^{こくたいじ}に第五世、第六世住職として本市の下糟屋村神宮寺^{じんぐうじ}の文道玄宋和尚^{ぶんどうげんそう}、池端村蔵福寺^{ぞうふくじ}の香国弁洩和尚^{こうこくべんえん}が選任されています。また、文道玄宋和尚のときに執事を務めたのが田中村^{こうらんじ}耕雲寺^{しょうどうげんりん}の松堂玄林和尚でした。国泰寺の持ち